

取材先 企画名	川棚温泉観光ボランティアガイドの会		
取材日	2025年2月23日(日)天候[曇⇒雪] [9:15~13:15]	取材地	川棚温泉

レポート

市内から川棚方面に向かうには、3つのルートがある。 国道191号線の海岸線を走るルート。 または新下関から農免道路を走るコース。 私の勧めは新下関から菊川方面に向かい、内日の手前を左折し豊浦清末線を通るコースである。 満々と水を湛える内日ダムを抜け、峠を渡りきると眼下に現れる圧倒的な風景。 響灘、そこに浮かぶ厚島、アルフレッド・コルトーを魅了し、種田山頭火に多くの自由律俳句を読ませた風景、毎回この景色に出会いたがためにここを走る。 川棚温泉に観光で訪れる人々のガイドを行いながら、コルトーホールを中心として川棚温泉の魅力を積極的に発信している団体が「川棚温泉観光ボランティアガイドの会」である。 今回は、このボランティアガイドの会が主催した「山城現地ガイド第2回 川棚茶臼山城」に参加した。

城と言っても天守閣がある城ではない。 主郭と曲輪の周りを土塁と堀切、切岸で囲い領地を外敵から守るために作った山城である。 約600年前に作られ、その後利用された痕跡のない場所にあるため、当然のごとく山裾から道なき道をガイドの方たちと歩く。 急斜面を登り、尾根をつたい中間地点の笠ヶ岳(383m)に到着。 そこからいよいよ山城の痕跡を残す主郭・曲輪を目指す。 そして最後の斜面を登り切った所にある比較的平らな場所に主郭・曲輪(本丸)の跡地が存在した。 当時木材は重要な生活物資であったため、ほとんどが切り出され裸の山状態だったとのこと。 この高さなら肥沃な川棚平野の防衛拠点として、最適だったと思う。 その時代に思いをはせていると空から白いものが・・・そう言えば今日は最強寒波の襲来で、雪予報が出ていた。 ボタン雪が大きな粒に変わり、やがて粉雪に変わる。 ガイドの方の指示で早速下山となった。 今度は急斜面を下るのである。 悠久の昔、川棚平野を守るため、先人たちはこんな険しい山に城を築いた。 未だに歴史の痕跡を残す川棚を探索するのは面白いと感じた。

